

特集:BS新時代への期待

BSデジタル放送は最強のソフトパワー

東経110度に浮かぶ放送衛星BSは日本最強の宇宙浮動産(インフラ)である。2010年10月にはBSAT-3bが加わり、さらに2011年第2四半期にはBSAT-3cが打ち上げられる予定だ。この強力インフラを利用して新たなBS放送新時代が始まろうとしている。BSの企画から調達、管理・運用までを担当しているのが(株)放送衛星システム(B-SAT)だ。基幹メディアとなり社会的影響がますます大きくなったBS放送の基本インフラを担う決意などをB-SAT社の幹部に聞いた。また、BS放送会社3社の幹部にも新BSへの期待などを聞いた。なお、本特集は次号でも更に深化されます。

(構成:天野昭/写真:新井誠+広瀬まり/資料提供:NHK+B-SAT)



2010年10月29日、BSAT-3bはアリアンロケットで無事打ち上げられた。BSAT-3bと同じロケットで打ち上げられた別の衛星は運悪く打ち上げ後に故障したが、BSAT-3bは順調に推移している



BS Power Interview

Takekaka Kazuo
(株)放送衛星システム 代表取締役社長

竹中一夫

1972年日本放送協会入局、科学番組ディレクター、ニューメディア戦略を担当、総合企画室[デジタル放送推進]局長、2008年より現職

BSAT-3a、3b、3cの3機体制確立へ

— BSAT-3bの打ち上げ成功おめでとうございます。また、12月8日には無事ホシの引き取りも終了し、これでBS新時代を迎える基盤が固まってきたといえますね。

竹中 これまでBSというホシはなにかと数奇な運命を辿ってきましたから、BSAT-3bの成功によって基幹メディアBSのインフラとしての安心・安定感が一層増したと思います。

B-SATが設立されてから18年が経過します。またBSデジタル放送開始から10年経ちました。BS放送のレシーバーは9000万台に達していますので、世界的にみても凄いプラットフォームだといえます。さらに、2011年はアナログが全て終了してデジタルに代わります。また、2011年第2四半期にはBSAT-3cの打ち上げが予定されています。それぞれ8つ